



いよいよ新年度が始まりました。山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館も人事異動等により、古川館長、小椋課長補佐、久野専門員（生物担当）の3名が新たに加わりスタートしています。今年度もよろしくお願いたします。

さて、今回は今年の2月28日から3月1日にかけて行われた、山陰地域にある3ジオパーク（山陰海岸、隠岐、島根半島・宍道湖中海）の合同研修会に参加したときの様子をご紹介します。

3 ジオパーク合同研修会

(1) ジオパーク講座及び拠点施設見学

3ジオパーク合同研修会は、隠岐ジオパークで開催されました。山陰海岸ジオパークからは7名、隠岐ジオパークは14名、島根半島・宍道湖中海ジオパークからは2名が参加しました。

フェリーで七類港を朝9時に出発し、11時半頃に島後の西郷港に到着しました。昼食をたべた後、拠点施設の隠岐ジオゲートウェイで、鳥海山・飛島ジオパークの大野希一主任研究員によるオンラインのジオパーク講座があり、ジオパークの理念、ユネスコの理念や目標などについて聴講しました（写真1）。大野氏は、ユネスコ世界ジオパークになって7つの基準が明確になったことや、教育、科学、文化をとおして人の心の中に平和の砦を築くことがユネスコの目的であることなどを話されました。その後、隠岐ジオゲートウェイの展示を見学しました。展示室は山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館の約2倍の広さがあり、中央に大型モニターとプロジェクションマッピングがありました。プロジェクションマッピングでは、隠岐ジオパークの地質、神社分布など様々な情報が投影できます（写真2）。また、展示室の周囲には隠岐諸島の成り立ちや自然、動植物、歴史などのパネルがあり、非常に分かりやすく展示されていました。特に、「地球時間の中の隠岐」というコーナーは、隠岐の石は、どのような地球の活動や内部の状況を教えてくれるのか、現在の景観はどのようにして作られたのかが分かりやすく説明してあり、とても参考になりました（写真3）。

(2) ディスカッションと現地見学〔1日目〕

ディスカッションと現地見学は、2日間ともガイドコースと事務局コースに分かれて行われました。事務局コースに参加しましたが、最初に一般社団法人隠岐ジオパーク推進機構の取り組みについて、野邊事務局長から説明がありました。隠岐ジオパーク推進機構は、隠岐ジオパーク推進協議会と隠岐観光協会が合併してできた一般社団法人です。全国的にも、ジオパーク運営組織の法人化の流れが進んでおり、隠岐ジオパーク推進機構の取り組みは大変参考になりました。今年度は島根半島・宍道湖中海ジオパークが会場で、3ジオパーク合同研修会が行われるそうなので、島根半島・宍道湖中海ジオパークの現状などいろいろな議論できればと思います。（裏面へ）



写真1: オンラインによる大野氏の講座

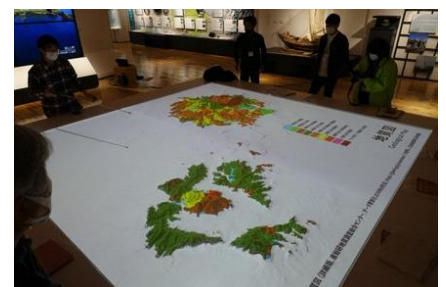


写真2: プロジェクションマッピングで表された隠岐ジオパークの地質図



写真3: 展示室のパネル

現地研修会では、玉若酢命神社、銚子ダム、都万の船小屋を見学しました。玉若酢命神社は、隠岐の神社の総社として位置づけられている神社で、本殿は隠岐造りと呼ばれる様式で造られています。ここで一番驚いたのは境内にある八百杉で、樹齢が千数百年といわれている巨木です（写真4）。幹の太さと曲がった大きな枝に大変驚きました。日本海側の杉は、雪に耐えるために枝が曲がるそうです。隠岐に流された後醍醐天皇や後鳥羽上皇も、この杉を見たのでしょうか。



写真4：境内の八百杉

銚子ダムでは、隠岐片麻岩の露頭が観察できました。海底に堆積した砂や泥が、高い温度と圧力を受けてできた岩石（変成岩）で、白黒の縞模様が見られます（写真5）。この岩石は、約2億5千万年前の岩石で、隠岐で最も古い岩石です。隠岐では道路の砂利などにも一般的に利用されている石だそうです。



写真5：隠岐片麻岩の露頭（露頭の一部が磨かれ、白黒の縞模様が見られる。）



写真6：都万の船小屋

都万の船小屋は、日本海側でしか見られない光景です。干満の差が少ない日本海側だからこそ、このような船小屋を造ることができるのですね（写真6）。

（3）ディスカッションと現地研修【2日目】

2日目は、最初に島前のジオパークホテルEntoを見学しました。ホテル内はとてもシンプルで、窓から見える景色は、絵画や写真を見ているかのような美しい景観が広がっています（写真7）。ホテル内にも化石の展示やジオパークの説明、地球の歴史や島前の各島の特徴を表した展示室などがあり、今までに見たことがないホテルでした。一度は宿泊してみたいホテルです。



写真7：Entoでの解説の様子

ホテル見学の後、このホテルの広間を会場にしてディスカッションを行いました。隠岐ジオパークの再認定審査の様子や推進機構について説明を聞き、意見交換を行いました。それぞれのジオパークの課題や事情が異なるとはいえ、非常に参考になる話で、多くの山陰海岸ジオパーク関係者に参加してほしいと思いました。



写真8：明屋海岸の露頭



写真9：後鳥羽上皇の御火葬塚

現地見学は、明屋海岸（写真8）と後鳥羽上皇の御火葬塚（写真9）、そして隠岐神社でした。明屋海岸は、約280万年前の火山噴火による岩石が見られ、岩に開いたハート型の海食洞門でも有名ですが、この日は波が高く、確認できませんでした。後鳥羽上皇の御火葬塚と隠岐神社は隣接しており、隠岐らしい歴史や文化を感じさせる場所でした。

コロナ禍で、これまで他のジオパークに行くことができませんでしたが、久しぶりに隠岐ジオパークに行き、刺激を受けました。また、同じ山陰の気候風土を持つ3ジオパークは、共通点も多くジオサイトの見せ方やガイドの仕方など、学ぶことが多いと感じました。このような交流ができるのもジオパークのよいところですね。（安藤）

<4月・ゴールデンウィーク中のイベント>

- ◆月と金星の接近を見よう！ 4月23日（日）19:00～21:00
- ◆DO!折り紙&ぬりえ 4月29日（土・祝）、5月4日（木・祝）10:00～12:00、13:00～15:00
- ◆磯の生き物タッチング 4月30日（日）、5月5日（金・祝）10:00～12:00、13:00～15:00
- ◆ばらばらマンガを作ろう！ 5月3日（水・祝）、5月6日（土）10:00～12:00、13:00～15:00
- ◆☆地質の日記念☆世界に一つだけの岩石標本をつくろう 5月7日（日）10:30～11:30、13:30～14:30（要申込み）

申込み不要です。
気軽にご参加ください